

コミュニティ施策を点検 初のワークショップ審議会で

宗像市コミュニティ施策検証審議会は、これまで8カ月間、10回に及ぶ審議の締めくくりとして7月20日、初めての市民参加による「ワークショップ審議会」を、ゆうゆうぶらざで開きました。コミュニティ、行政、むなかた市民フォーラムからの参加者と審議会委員の約50人が、熱のこもった論議を繰り広げました。

7つのグループに分かれてのワークショップで課題が明らかになったのは①コミュニティの「いま」を担う人材の力量アップ、②コミュニティの「これから」を担う子どもたちとのつながりをどうつくっていくか——などでした。同審議会はこれらの課題を答申書に盛り込んで、8月18日に最終答申として谷井市長に手渡しました。

宗像ユリックス情報

ゆりっくす日曜百円寄席 50回に。

宗像落語会とユリックスが5年前から続けてきた「ゆりっくす日曜百円寄席」が、10月9日で50回目の開催になります。高校の先生あり、お医者さんありと多彩な顔ぶれのアマチュア噺家の熱演による笑いの渦。ナマの落語が聞ける貴重な機会とあって、月に一回の楽しみにする市民も増え、チケット完売もしばしばです。



最近では会場に小学生のファンの姿も見られるようになりました。この日は50回記念のお楽しみ抽選会もあって、いっそうの盛り上がりになりました。

11月には地島での“出張”百円寄席が予定され、12月3日には「年忘れ大爆笑! 全国アマ落語名人会」も開かれます。宗像地区の落語ファンにはこたえられない季節の到来です。

8/9~8/11

「子どもたちがボランティアを体験!」 ~ジュニアボランティアスクール~

宗像市の小学生37人が参加したジュニアボランティアスクール。3日間を通し、「みんなが住みやすいまちづくり」を目指すユニバーサルデザインをテーマに、福祉・環境・歴史分野の学習を実施しました。

【宗像市ボランティアセンター】



使いやすいトイレに
なっているかな?



お菓子の空き袋で
きれいな蝶を作ります



飲み物を選ぶ時は
少し大変です

コミュニティ施策を点検 初のワークショップ審議会で

宗像市コミュニティ施策検証審議会は、これまで8カ月間、10回に及ぶ審議の締めくくりとして7月20日、初めての市民参加による「ワークショップ審議会」を、ゆうゆうぶらざで開きました。コミュニティ、行政、むなかた市民フォーラムからの参加者と審議会委員の約50人が、熱のこもった論議を繰り広げました。

7つのグループに分かれてのワークショップで課題が明らかになったのは①コミュニティの「いま」を担う人材の力量アップ、②コミュニティの「これから」を担う子どもたちとのつながりをどうつくっていくか——などでした。同審議会はこれらの課題を答申書に盛り込んで、8月18日に最終答申として谷井市長に手渡しました。

宗像ユリックス情報

ゆりっくす日曜百円寄席 50回に。

宗像落語会とユリックスが5年前から続けてきた「ゆりっくす日曜百円寄席」が、10月9日で50回目の開催になります。高校の先生あり、お医者さんありと多彩な顔ぶれのアマチュア噺家の熱演による笑いの渦。ナマの落語が聞ける貴重な機会とあって、月に一回の楽しみにする市民も増え、チケット完売もしばしばです。



最近では会場に小学生のファンの姿も見られるようになりました。この日は50回記念のお楽しみ抽選会もあって、いっそうの盛り上がりになりました。

11月には地島での“出張”百円寄席が予定され、12月3日には「年忘れ大爆笑! 全国アマ落語名人会」も開かれます。宗像地区の落語ファンにはこたえられない季節の到来です。

8/9~8/11

「子どもたちがボランティアを体験!」 ~ジュニアボランティアスクール~

宗像市の小学生37人が参加したジュニアボランティアスクール。3日間を通し、「みんなが住みやすいまちづくり」を目指すユニバーサルデザインをテーマに、福祉・環境・歴史分野の学習を実施しました。

【宗像市ボランティアセンター】



使いやすいトイレに
なっているかな?



お菓子の空き袋で
きれいな蝶を作ります



飲み物を選ぶ時は
少し大変です

2011 新たな飛躍へ! 夢灯籠まつり

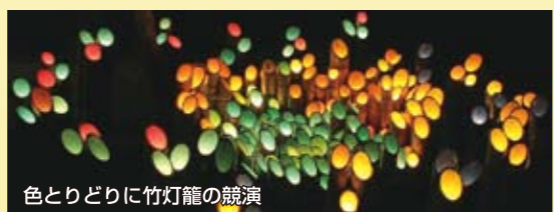


灯籠でこんなオブジェも

まちの賑わいづくりや環境をテーマに、赤間地区の市民活動団体やコミュニティ、大学、学校などが取り組んできた「夢灯籠まつり」が、4年目を迎えて新たな飛躍を遂げようとしています。地球環境を考える「アースデイむなかた10万人アクション」(市が主催)のモデル事業に選ばれ、一段とパワーアップするのです。10月8(土)・9(日)の開催へ、フル回転で準備が進んでいます。

8日は家庭省エネアクション。各家庭が電灯を消して灯籠の明かりで夕食や団らんを楽しみ、近隣とのコミュニケーションづくりにもつなげます。9日は竹灯籠アクション。赤間地区で7,000本の竹灯籠を駆使したイベントを展開し、これに前日の家庭での取り組みが合流していく——という構成になっています。

梅田芳徳実行委員長は「これまで3年間の成果を活かし、市主導ではなく、わたしたちの手で“市民が一つ”をつくっていききたい」と、力強く語っています。



色とりどりに竹灯籠の競演

さつき会は、大島にある柑橘類を最大限活用し付加価値を付けて島の外に送り出せるように、大島みかんを生かしたフレッシュ感あふれる商品づくりプロジェクトを実施しています。

活動拠点は「はまゆうワークセンター宗像」です。ここは、障がいを持った人の職場で、色々な仕事をして所得を得たり、職業訓練を経て、一般企業に就職したりしています。

皆で大島に渡り、収穫した甘夏の皮と果汁を煮込んだペースト状のもの「ピューレ」を作ります。そのピューレを活用したドレッシングやスイーツなどの開発に取り組んでいます。

障がいのある人が働くことで地元の柑橘類が守られるとともに、島との交流が生まれることを期待します。

元気な島

社会福祉法人さつき会



皮をむいてピューレ作り



おいしいドレッシングが
できるかな?!



式典をサポートするボランティア



早川勇講演会

人まち

吉武歴史観光ボランティアの会

この会は、豊富な地域資源を活かした観光プログラムを、吉武地区コミュニティ運営協議会と連携し、企画、実施することで地域の活性化を図るために立ち上げられた団体です。

7月23日(土)には、早川勇翁生誕百八十周年記念事業(早川勇は宗像地方唯一の「維新の志士」として親しまれている郷土の偉人)に協力団体として参加しました。昭和43年に建立された陶像を銅像として新たに建立したお披露目を兼ねて行われたもので、参加者は100人を超えました。

当日は「吉武歴史観光ボランティアの会」が会場設営や受付・司会など運営のほとんどを担い、ピンクのユニホーム姿のメンバーが忙しく動く姿は、地元関係者には頼もしい限りでした。

メイクハッピー&ピースは、幸せの提案と平和な社会の実現をコンセプトに、次世代育成、地域環境・まちづくり、国際協力の3事業を行っています。中でも今年度から始まった「むなかたのち輝くプロジェクト」の「いのちの授業」は大変好評です。

年8回、子どもや大人が共に自然や環境、動物や昆虫などと触れ合い、体験から「いのち」について学んでいます。田植えや稲刈り、野菜作りや収穫をはじめ、アイガモやにわとりなどと触れ合い、時にはいのちを頂く体験を通して、いのちを体感します。

毎回の参加者は30人を超え、いきいきと輝く表情がとても印象的です。

あなたも参加してみませんか? *詳しくはブログ(<http://makehappyandpeace.blogspot.com/>)を、ご覧ください。



アイガモを引っ越しさせています

人まち

Make Happy & Peace



8/21 いのちかがやくプロジェクトのメンバー



流しぞうめんを楽しむ子どもたち